

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡA(SeminarⅡA)		授業コード	E002416
担当教員名	松下 乾次		科目ナンバリングコード	E21201
配当学年	2	開講期	前期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	特になし。			
受講心得	出席が必修です。課題(授業への参加・レポート)をしっかりと達成してください。			
教科書	岩田規久男『日本経済を学ぶ』(ちくま新書)。			
参考文献及び指定図書	授業で指示します。			
関連科目	法律、経済、経営、政治関係の科目を広く取ってください。			

授業の目的	<p>企業・組織の社会的責任を学習していきます。企業、官庁その他様々な組織における不祥事が連日報道されています。食の安全を無視する食品関係企業、国民の年金をいかにげんに処理にしていた行政官庁など。明らかな法令違反は問題外です(コンプライアンスは必須)。いまでは、消費者、国民(ステーキホルダー)は、組織の提供するモノ、サービスに対してそれ以上のものを求めます。社会的貢献、社会的責任(CSR)です。21世紀、19,20世紀と発展してきた産業社会は、テロ、経済危機、環境破壊と大きなリスクに直面しています。このリスクにどう対応するか様々な組織は問われています。組織そのものの存在意義への問いです。これは、組織と個人という古典的な問題でもあります。個人は、前世紀に続いて、今日さらに個人化しています。そもそも、社会(組織・団体)、国家の存在そのものが問われる事態である。ゼミナールでは、この根源的な問題を踏まえつつ(個人の尊重と組織による連帯・共生)、様々な組織の現状と問題を考えていきます。</p> <p>ゼミナールⅡAでは、その基礎的、社会常識的な問題から学習します。「社会認識力」を培ってもらいます。また、本ゼミナールでは、ゼミの課題を通して、社会に出たときに必要になるコミュニケーション・ツール、すなわち「聞く」、「読む」、「書く」、「話す」のスキルを学習します。ゼミナールⅡではとくに、ノートの作成を通して、「聞く(メモる)」と「読む(要約)」を実践します。</p>
授業の概要	<p>戦後日本経済史を教科書にしたがって見ていきます。ゼミナールⅢ以降で現代の企業・会社に課題を学習していきますが、その前提として戦後、そして現在の経済・金融の現状を学習します。毎時間最初に(10分程度)、日経新聞の記事から、注目される経済記事をいっしょに見ます。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ガイダンス。ゼミナールの課題について</b> ゼミナールの課題について、その全体を説明します。現代の企業の課題について概括的に学習します。学修目標の設定、履修指導を行います。	学修計画・自己評価を提出。
<b>第2週：ゼミナールの課題について(続き)</b> 大学で「学ぶ」ことと職業について、考えます。	ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第3週：ゼミナールⅡA・ⅡBの課題について</b> 現代の企業・会社の課題の背景にある経済・金融を見ていく。	ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第4週：日本経済史(明治以降～バブル崩壊まで)</b> 簡単な資料を使って、近代以降の日本の経済史を見る。	ゼミナールの内容をノートに整理する。

<b>第5週：日本経済史(明治以降～バブル崩壊まで)</b>		
簡単な資料を使って、近代以降の日本の経済史を見る。戦前日本の経済の問題として、「都市と農村(地方)」、「大企業(財閥)と中小企業」の格差の問題。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第6週：岩田規久男『日本経済を学ぶ』教科書の内容の紹介</b>		
著者(現日銀副総裁)の考え方(金融政策)を紹介する。失われた20年、デフレ脱却について。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第7週：教科書 第1章「戦後復興から高度経済成長」</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。高度経済成長の要因。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第8週：教科書 第1章「戦後復興から高度経済成長」</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。高度経済成長の要因。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第9週：教科書 第1章「戦後復興から高度経済成長」</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。第一次石油危機と高度経済成長の終焉。現在の日本の経常収支の赤字の問題(輸出入の構造変化)、日本の国力と比較。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第10週：教科書 第1章「戦後復興から高度経済成長」</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。第一次石油危機と高度経済成長の終焉。変動相場、円高の問題。現在の円安との比較。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第11週：教科書 第1章「戦後復興から高度経済成長」</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。石油危機の背景としての中東問題。原油価格の推移(現在まで)。高度経済成長終焉の要因を考える(学説の比較)。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第12週：教科書 第1章「バブル景気から失われた10年」</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。バブル景気の要因。高度経済成長終焉の要因を考える(続)。人口移動の推移。地方分散政策、全国総合開発計画の展開。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第13週：教科書 第2章「バブル景気から失われた10年」</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。好景気あるいはバブル経済の基本条件とは。バブル前夜の状況。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第14週：教科書 第2章「バブル景気から失われた10年」</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。バブル崩壊後、失われた10年。		ゼミナールの内容をノートに整理する。
<b>第15週：教科書 第2章「バブル景気から失われた10年」 個人面談</b>		
担当発表者が概要を説明し、質疑応答。バブル崩壊後、失われた10年。		前期のゼミナールの内容を、レポートにして提出する。
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	日本の経済・金融がどのような状況にあるか、強い関心を持つ。
【知識・理解】	日本の戦後の経済・金融について考えるために、基本的な知識を持つ。
【技能・表現・コミュニケーション】	日本の戦後の経済・金融について、主要な論点を整理してまとめる。
【思考・判断・創造】	日本の戦後の経済・金融について、自分の意見を持つ。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点	
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	